

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 8

年次報告書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2018年は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」(第26回)の受賞者にフランス国立社会科学高等研究院教授のオギュスタン・ベルク博士を選出いたしました。ベルク博士は、哲学者、和辻哲郎の風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mesologie)」という新たな学問領域を切り拓かれました。これは、自然と人間の関係を新たな視角から捉え直そうとしたもので、今後の人類の生存を方向づける重要な哲学的指針を提起したものと評価いたしました次第です。

助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

今後とも、各事業を推進してまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、これら2018年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

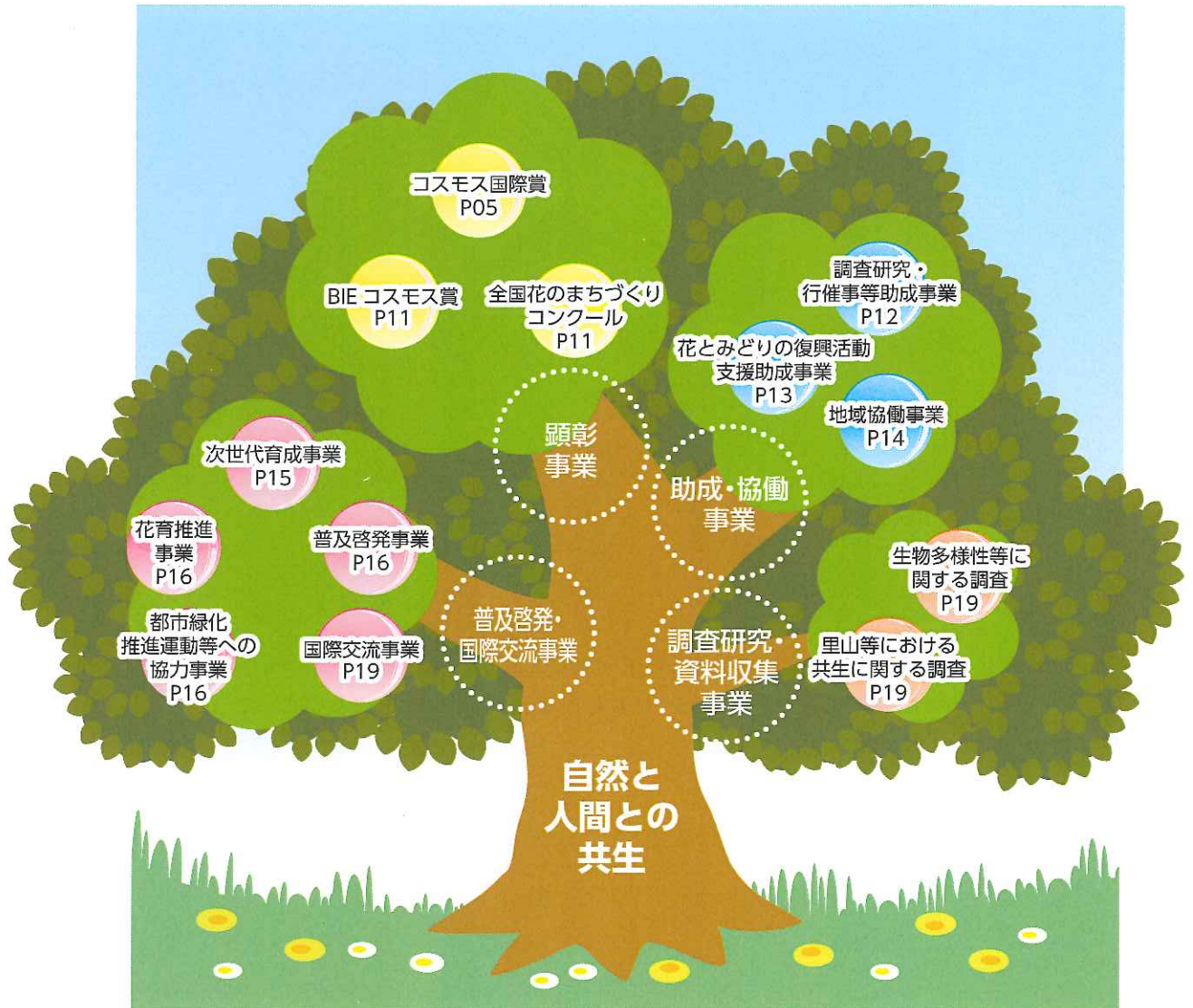
皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ベルク博士ご夫妻は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。

(平成30年11月21日 東宮御所にて)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2018年(第26回)受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2018年(第26回) 受賞者の選考・決定等>

- ・ 第1回、第2回選考委員会(平成30年5月18日、6月1日)
- ・ 第3回選考委員会(平成30年6月29日)
- ・ 第2回賞委員会(平成30年6月29日)

2018年受賞候補者にオギュスタン・ベルク博士(フランス国立社会科学高等研究院教授)が選定されました。

- ・ 第98回理事会(平成30年7月24日)

賞委員会より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施しました。



2018年(第26回)コスモス国際賞受賞者

オギュスタン・ベルク博士
(フランス国立社会科学高等研究院教授)

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mesologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

<2019年(第27回) 受賞者の選考等>

- ・ 第1回賞委員会(平成31年2月4日)

2018年
(第26回)
コスモス賞
授賞式の開催

国内外からの賓客及び招待者約370名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成30年11月14日(月)午後3時~5時

場 所:いずみホール(大阪市中央区)

出席者:約370名

次 第:主催者紹介 来賓紹介(2016年受賞者岩槻邦男博士、ジャン=マチュー・ボネル在京都フランス総領事、菱沼義久農林水産省大臣官房生産振興審議官、長井俊彦国土交通省大臣官房審議官、竹内廣行大阪府副知事、合田寛大阪市建設局公園緑化部長)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状、賞金目録贈呈、メダル贈呈

来賓祝辞(安倍晋三内閣総理大臣)

受賞者講演 祝賀演奏 閉会



顕彰事業

2018年
コスモス国際賞
受賞記念講演会

コスモス国際賞の関連行事として、2018年受賞者オギュスタン・ベルク博士による講演会を開催しました。

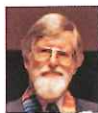
	●京 都	●東 京	●仙 台
日 時	平成30年10月21日(日) 午前10時～午後5時15分	平成30年11月19日(月) 午後4時～6時	平成30年12月2日(日) 午後1時30分～4時30分
場 所	京都大学シンポジウムホール (京都市左京区)	東京大学安田講堂 (東京都文京区)	仙台国際ホテル (仙台市青葉区)
講 演	テーマ 「日本列島の自然観」	持続可能性の風土的基盤	持続可能性の風土的基盤
	2018年コスモス国際賞受賞者 オギュスタン・ベルク博士(フランス国立社会科学高等研究院教授)		
次 第 等	講師等 講演 秋道智彌 (コスモス国際賞委員会委員・ 山梨県立富士山世界遺産セン ター所長) 対談 オギュスタン・ベルク 山極壽一 (京都大学総長) など	受賞者紹介 秋道智彌 (コスモス国際賞委員会委員・ 山梨県立富士山世界遺産セン ター所長)	受賞者紹介 野家啓一 (コスモス国際賞選考専門委員 会委員・東北大学総長特命教授) 対談 オギュスタン・ベルク 赤坂憲雄 (学習院大学教授) 佐倉統 (東京大学教授)
	参加者	約100名	約380名
共 催	総合地球環境学研究所、 KYOTO地球環境の殿堂	東京都教育委員会	東北大学、宮城大学、 総合地球環境学研究所
後 援	京都府、京都市、京都新聞社	農林水産省、国土交通省、 文部科学省、環境省、 フランス大使館	河北新報社



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・プランス 卿
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良龍夫
(物故)
Dr. Tatu Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

2018年度事業実績

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーヴン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を取めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・ゲン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルゲレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

2013年(第21回) 平成25年
ロバート・トリート・ペイン
(物故)
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年
フィリップ・デスコラ
Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年
ヨハン・ロックストローム
Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回) 平成28年
岩槻 邦男
Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年
ジェーン・グドール
Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

野生チンパンジーの研究を続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーが住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った。また、博士が創案した環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」は、世界の多くの国で実践されている。

委員会

コスモス国際賞委員会 平成30年4月現在(50音順)

- 委員長 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
 副委員長 尾池 和夫 京都造形芸術大学学長
 委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長
 委員 浅島 誠 帝京大学特任教授
 委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授
 委員 磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授
 委員 佐々木 恵彦 公益財団法人国際緑化推進センター理事長
 委員 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・特任教授
 委員 西澤 直子 石川県立大学生物資源工学研究所教授
 委員 林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長
 委員 鷺谷 いづみ 中央大学理工学部教授
- 顧問 有馬 朗人 学校法人根津育英会武蔵学園学舎長
 顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館館長

コスモス国際賞選考専門委員会 平成30年4月現在(50音順)

- 委員長 林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長
 副委員長 中 静 透 総合地球環境学研究所特任教授
 委員 池邊このみ 千葉大学大学院園芸学研究科教授
 委員 池谷 和信 国立民族学博物館教授
 委員 モンテ・カセム 立命館大学名誉教授
 委員 亀崎 直樹 岡山理科大学生物地球学部教授
 委員 ケビン・ショート 東京情報大学環境情報学科教授
 委員 辻 篤子 名古屋大学国際機構国際連携企画センター特任教授
 委員 野家 啓一 東北大学総長特命教授
 委員 村上 哲明 首都大学東京大学院理学研究科教授

顕彰事業

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE(博覧会国際事務局:本部パリ)等が実施する「BIEコスモス賞」を支援しています。平成30年度は、過去5回の効果検証に着手し、今後のあり方について検討を進めました。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第28回 (2018年) 花のまちづくり コンクール

主催者：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)

入賞/応募数：26点/1,667点

表彰式：平成30年10月25日(木)、東海大学校友会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



団体部門



団体部門

国土交通大臣賞



団体部門



団体部門

第24回 全国花の まちづくり 中之条大会

主催者：全国花のまちづくり中之条大会実行委員会、中之条町、花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)花普及センター)

開催日：平成30年7月21日(土)～23日(月)

場所：パイテック文化ホール他(群馬県中之条町)



助成・協働
事業

1. 調査研究・行催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、活動、行催事を支援する助成事業を実施しました。

平成30年度
助成事業

平成30年度は33件の事業に助成しました。

●事業区分	●助成団体名	●助成事業名
調査研究開発	洞爺湖生物多様性協議会	洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査事業
	特定非営利活動法人大阪公立大学共同出版会	バーチャル常世文庫の創設と関係資料のアーカイブ化
	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	RDIⅢ類のトンボ及び生息地の保護・保全と分布調査
	NPO法人おおいた環境保全フォーラム	稀少種カワツルモを指標とし瀧湖・龍神池の再生事業
	横浜国立大学・天然林の多様性研究グループ	樹木種の多様性と機能性を支えるメカニズムの解明
	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	荒れ果てた里山を救え・大場桜山再生プロジェクト
	モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発
	コウノトリ湿地ネット	市民参画型によるコウノトリ飛来状況調査
	奈良学園高等学校SS研究チーム	地下探査の研究成果を用いたラン科サギソウ群落の保全
	中学生植物研究会	絶滅危惧の中生代古植物研究者の育成アウトリーチ活動
	竹の國	竹と茶
	活動・行催事	認定特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター
公益財団法人南方熊楠記念館		番所山(南方熊楠の森)の昆虫・粘菌調べ隊
つくし野ビオトーププロジェクト		地域で親子が生物多様性を体系的に学ぶ体験的環境学習
錦都自然環境プロジェクト		「生き物大好き」わくわくドキドキ、錦都ビオトープ
特定非営利活動法人山の自然学クラブ		宮城県気仙沼市の地域在来植物の保全・育成・植栽活動
古屋の記憶継承プロジェクト倶楽部		古屋の記憶継承プロジェクト
京都伝統文化の森推進協議会		京都伝統文化の森推進協議会10周年記念冊子の発行
伊吹くらしのやくそう倶楽部		伊吹の藁草復活プロジェクト
緑道ワークス		市民の手による、緑道『五感のみち』化プロジェクト
特定非営利活動法人メリーポピンズの会		「花と緑でまちを元気に」の活動(継続)
公益社団法人園芸文化協会		江戸の花プロジェクト・園芸文化を守ろうセミナー
特定非営利活動法人樹木研究会こうべ		岡本地区花木名所の保全対策立案
福興浜団		菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク		都市部の住民へ森林保全の必要性を学ぶキコリ体験会
特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校		白神山地世界遺産登録25周年を学ぶ学習事業
逢瀬さくらの里		新名所づくり「出逢いのさくら通り」事業
一般社団法人フラワーズサイエティ		園芸雑誌要約集「花アブストラクト」の発行
福井南ロータリークラブ		足羽山公園緑地化
千葉大学 松戸・柏の葉地区 環境ISO学生委員会		花と緑による住民主体の復興活動の支援
特定非営利活動法人ハープとスローフードのまちづくり		増加傾向の耕作放棄地を花と緑で潤う空間にする活動
梅ヶ久保自然愛護会		里山に自生する山野草の育成と保護、現場で輪を広げる
一般社団法人エコロジーカフェ	八戸公園トンボの楽園調査プロジェクト	



洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査事業



RDIⅡ類のトンボ及び生息地の保護・保全と分布調査



地域で親子が生物多様性を体系的に学ぶ体験的環境学習



「生き物大好き」わくわくドキドキ、錦都ビオトープ



江戸の花プロジェクト・園芸文化を守ろうセミナー



都市部の住民へ森林保全の必要性を学ぶキコリ体験会

委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成30年4月1日現在(50音順)

委員長	丸山 宏	名城大学農学部教授	副委員長	林 孝洋	近畿大学農学部農業生産科学科教授
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環教授	委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	永田 萌	イラストレーター・絵本作家	委員	鷺谷いづみ	中央大学理工学部人間総合理工学科教授
委員	久山 敦	一般財団法人大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長	委員	吉田昌弘	株式会社空間創研取締役会長
委員	長村 智司	一般社団法人フラワーズサイエティー会長			

平成31年度
助成対象の決定

平成31年度の助成事業は、中長期計画に基づき「花とみどりの復興活動支援助成事業」を「助成事業」に統合し、3部門による「花博自然環境助成」としてリスタートし、公募等を行いました。

〈公募〉公募期間:平成30年8月1日(水)~9月14日(金) ※復興活動のみ10月31日(水)まで

〈審査〉審査期間:平成30年10月~平成31年1月

〈決定〉助成事業審査会の審査結果として、対象47件が理事長に答申され決定しました。
また、この内容は第99回理事会に報告しました。

2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の被災6県(青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉)に加え、平成30年度より熊本地震被災2県(熊本県、大分県)を新たに対象地域として、花とみどりによる復興活動を行う団体へ助成支援を行いました。
なお、本事業は、阪急電鉄株式会社からの寄附金等を充当し、実施しています。

平成30年度
支援内容

公募期間:平成30年4月10日(火)~5月22日(火)

採択/応募件数:17/26件

助成総額:4,664,000円

●助成団体名	●所在地	●助成事業名
花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会	千葉県	(3.11継承する集い)2019実行委員会が主催する花の植栽活動等と復興支援事業
浦浜・泊まちづくり委員会	岩手県	浦浜・泊地区浸水地域の緑化事業
ナチュラルギフト	岩手県	花とみどりの元気ひるば
災害対策ボランティアネットワーク	千葉県	福島被災障がい者施設 花元気プロジェクト
特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター	福島県	花が育む高校生と地域との交流支援事業
中島校区社会福祉協議会	熊本県	助け合いつながり合う中島2018
NPO法人サンガ岩手	岩手県	復興の花壇に集おうプロジェクトⅣ
弓削校区健康まちづくり委員会	熊本県	まちあるき~お花を咲かせて元気になるう~
はなあそび	福島県	心の成長と癒しを目的とする復興支援活動
特定非営利活動法人スマイルシード	宮城県	「今を支え・未来を育てる」~野外循環コミュニティづくり~
坪井川遊水地の会	熊本県	坪井川遊水地復興桜並木プロジェクト
Noroshi西原	熊本県	西原村みんなの花壇作り
熊本市立龍田小学校PTA	熊本県	地域の竹林を活用した小学校花いっぱい運動
特定非営利活動法人パワーアップ支援室	岩手県	花・陽だまり・心の和みプロジェクト
フラワーパワースポット実行委員会	熊本県	空の玄関ましき~花と緑の復興プロジェクト
肥後朝顔涼花会	熊本県	肥後朝顔の栽培環境再整備と普及
砂子田園芸クラブ	福島県	花と緑の砂子田圃地



福島被災障がい者施設 花元気プロジェクト



「今を支え・未来を育てる」
~野外循環コミュニティづくり~



地域の竹林を活用した小学校花いっぱい運動

委員会

花とみどりの復興活動支援助成事業審査員 平成30年4月1日現在(50音順)

委員	久山 敦	一般財団法人大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長
委員	長村 智司	一般社団法人フラワーズサイエティー会長
委員	吉田昌弘	株式会社空間創研取締役会長

助成・協働
事業

3. 地域協働事業

花と緑の交流
広場
(自然と人間との
共生フェスタ)

助成事業の成果の波及及び団体間の交流促進のため、三重県総合博物館、鳥羽市立海の博物館と共に自然と人間との共生フェスタin三重を開催しました。

日 時:平成31年3月2日(土)午後1時30分～午後7時

場 所:三重県総合博物館 レクチャールームほか

来場者:約110名

内 容:三重県内で活動する過年度助成団体を含む20団体が、「民俗・文化」、「海」、「里・山」の3つのカテゴリーから、事例発表、ポスター展示を行いました。事例発表の質疑応答では、講師の講評も交え、活発な議論が行われました。

共 催:三重県総合博物館、鳥羽市立海の博物館

後 援:農林水産省、国土交通省中部地方整備局、環境省中部地方環境事務所、三重県、津市

口頭・ポスター展示団体:志摩市歴史民俗資料館磯部古文書学習会、磯部の御神田奉仕会、鳥羽市立菅島小学校、浦村地区藻場保全活動組織、白塚の浜を愛する会、赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会、ウミガメネットワーク、認定NPO法人森林の風、三重県立四日市西高等学校自然研究会、NPO法人大杉谷自然学校

ポスター展示団体:三重中学校・三重高等学校科学技術部、新雲出川物語推進委員会、保々の自然に親しむ会、NPO法人ECCOM、みえ森づくりサポートセンター、志摩半島野生動物研究会、石鏡海女組合、あらしま新鮮組、三重県総合博物館ミュージアムパートナー 染織グループ、ぶんぶん昆虫探研隊

その他:エクスカッション 平成31年3月3日(日) 参加者30名

浦村地区藻場保全活動組織、鳥羽市立海の博物館、磯部の御神田奉仕会の活動場所3箇所視察



歴史の道
みどりの拠点
づくり事業

歴史的に価値のある街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる魅力的な環境づくりを行うことにより「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげる本事業は、大阪府泉大津市での助松村境石造物群事業(紀州街道)1件を実施した他、新たに1件の事業を採択しました。



2018年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、協会に關係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「校庭・園庭における生態園づくり」を実施しました。

コスモスセミナー
自然観察教室
～生まれ生きもの
好きな子供たち
2018～

開催日:平成30年8月11日(土)～8月13日(月)
場 所:兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)
講 師:谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
三橋 弘宗(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)
参加者:近畿圏の小学4年～6年生 29名
共 催:兵庫県立人と自然の博物館
旅行主催・実施:ワールドツアーシステム(株)
後 援:大阪府、兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県立大学、
猪名川町教育委員会、JT生命誌研究館、日本環境教育学会、
(一社)日本昆虫学会、(一社)日本生態学会、日本動物行動学会、
日本昆虫協会



小学校講師派遣

● 実施日	● 実施校および参加者	● テーマ	● 講師
平成30年6月14日	泉大津市立浜小学校 5年生 70人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
6月20日	東大阪市立瀧池東小学校 3年生 82人	植物のはたらき	渋谷俊夫(大阪府立大学 准教授)
7月2日	香里ヌヴェール学院 3年生 63人	//	//
7月9日	大阪市立加美東小学校 3年生 54人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
7月12日	神戸市立多井畑小学校 3年生 41人	//	//
7月13日	枚方市立高陵小学校 4,5,6年生 68人	//	//
7月18日	大阪狭山市立第7小学校 5年生 96人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
8月30日	大阪市立菅原小学校 3年生 104人	昆虫の生態・川の環境	谷幸三((一社)淡水生物研究所理事)
9月5日	大阪市立西船場小学校 3年生 95人	//	//
9月10日	堺市立家原寺小学校 3年生 56人	//	//
9月21日	貝塚市立北小学校 3年生 47人	//	//
10月1日	大阪市立瓜破西小学校 4年生 50人	//	//
10月30日	大阪市立北中島小学校 5年生 79人	//	//
12月13日	大阪市立長吉小学校 5年生 92人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成31年2月5日	堺市立原山ひかり小学校 4年生 76名	まちの景観・歴史	増田昇(大阪府立大学名誉教授)



2018年度事業実績

普及啓発・ 国際交流事業

校庭・園庭に
おける
生態園づくり

● 学校名(所在地)

姫路市立山田小学校(兵庫県姫路市)

姫路市立白鷺小中学校(兵庫県姫路市)

東大阪市立意岐部東小学校
(大阪府東大阪市)

● 内 容

山田町にある希少植物・生物を守り、
育てて行こう!

白鷺バタフライガーデンを利用した環境教育
と地域と協働した地域活性化

人と自然生物が共に生活する学校づくり



鶴見緑地
昆虫クエスト
大作戦

幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施する予定でしたが、会場となる大阪市鶴見緑地が台風21号による被害を受けたため、やむなく中止しました。

2. 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



3. 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4月~6月)」および「都市緑化月間(10月)」における都市緑化キャンペーン活動等を都市緑化推進運動協力会に参画し、支援しました。



4. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

大阪都市緑化
フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日:平成30年9月23日(日)~9月24日(月・祝)

場 所:万博記念公園お祭り広場(大阪府吹田市)

来場者:約23,000名

主 催:当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合



はならんまん
2018

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。
開催日：平成30年9月29日(土)～30日(日)
(30日(日)は、台風接近の影響により中止)
場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)
来場者：約3,500名
主 催：当協会、大阪市



みどりの
まちづくり賞
(大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第8回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。
応募数：34件
入 賞：11件
表彰式・講評会
開催日：平成30年10月31日(水)
場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)・パフォーマンススペース(大阪市中央区)
来場者：約100名
主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



5. その他の普及啓発

協賛・後援等

花の万博の理念の普及・啓発のため、各種団体が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主 催	● 名義等
第15回2018周防町通り「はなまつり」(H30.5.1～5.31)	周防町通り(堺筋～御堂筋間)と大阪府立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
「大阪ばら祭2018」(H30.5.11～5.13)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	関西ばら会、鶴見緑地スマイル5	後援 会長賞
平成30年度大阪府花の文化園幼児・小中学生花の絵画展(H31.1.5～2.3)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
水都おおさか森林の市2018(H30.10.28)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
第22回咲くやフォトコンテスト(H30.11.27～H31.1.20)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	一般財団法人大阪スポーツみどり財団	協賛 会長賞
平成30年度「都市緑化月間」(H30.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
軽トラガーデンコンテスト(H30.9.22)	万博記念公園(大阪府吹田市)	阪神造園建設業協同組合(一社) 日本造園組合連合会大阪府支部	会長賞
第73回日本おもと名品展(H30.11.17～11.18)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	公益社団法人日本おもと協会	後援 会長賞
小品盆栽フェア第27回春雅展(H31.3.29～3.31)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
2019日本フラワー&ガーデンショウ(H31.4.19～4.21)	パシフィコ横浜展示ホールB(神奈川県横浜市)	公益社団法人日本家庭園芸普及協会	協賛
いけばなインターナショナル大阪支部 第28回フェスティバル(H31.4.28)	大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)	いけばなインターナショナル大阪支部	後援



大阪府花の文化園幼児・小中学生花の絵画展



第73回日本おもと名品展



小品盆栽フェア第27回春雅展

2018年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

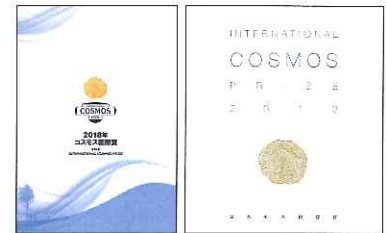
ホームページ等の運営・管理

協会ホームページをリニューアルすると共にSNSの活用や動画サイトにコスモス国際賞の受賞者の動画を公開するなど、情報発信を行いました。



コスモス国際賞の広報

最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付しました。また、2018年(第26回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書を作成(2,500部)し、国内外の関係者に配付しました。



情報誌の刊行

協会の事業情報や「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌を『KOSMOS』(変形A5判24頁1,000部)の4号、5号を発刊しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	13件
企業・個人	11件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配付等しました。



6. 国際交流事業

海外における青少年交流事業の実施や国際園芸博覧会への出展準備を行いました。

高校生のための 生き物調査体験 ツアー in 台湾

次世代を担う高校生を台湾に派遣し、自然科学分野の視野を広げると共に、現地の高校生との交流により、国際的な感覚を育成する生き物調査体験ツアーを実施しました。

開催日：平成30年8月1日(水)～平成30年8月7日(火)6泊7日

場 所：台北市立動物園(台北市)、東眼山自然教育センター(桃園市)

参加者：日本人高校生20名、台湾人高校生20名 計40名

企画主体：当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園、(財)台北動物保育教育基金会

旅行手配：(株)JTB



国際園芸博覧 協力

中国・北京で2019年4月29日から同年10月7日の会期で開催予定の北京国際園芸博覧会の日本国出展に係る委員会に参加するなど、日本政府の出展準備作業に協力しました。



調査研究・ 資料収集 事業

生物多様性等に関する調査

東・東南アジア における 植物多様性保全

東アジアと東南アジアの植物多様性の情報共有・問題解決に向けた議論を行い、植物多様性の重要性と必要性を広く発信することを目的として、国立科学博物館、日本植物園協会と共催で、「国際シンポジウム『東・東南アジアにおける植物多様性保全』」を開催しました。

開催にあたっては、平成28年度に作成した『日本固有植物に学ぶ自然のしくみと共生の知恵』を配布しました。

開催日：平成30年11月9日(金)～11日(日)

場 所：国立科学博物館(東京都台東区)

参加者：約240名(3日間の合計)

共 催：国立科学博物館、(公社)日本植物園協会



プラネタリー バウンダリーの 概念とこれからの 生態系教育の あり方

大阪府高等学校生物教育研究会にて、「プラネタリーバウンダリーの概念とこれからの生態系教育のあり方」について、講義を行うとともに、関連小冊子の配布を行った。

開催日：平成31年2月22日(金)午後3時～5時

場 所：ヴィアール大阪(大阪市中央区)

講 師：森本幸裕協会理事

参加者：大阪府下高等学校生物担当教員 約30名



組織運営

理事会 平成30年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第97回理事会	平成30年 6月7日(木)	経団連会館カンファレンス (東京都千代田区)	平成29年度事業報告並びに収支決算について 定時評議員会の招集について
第98回理事会	平成30年 7月24日(火)	ステーションカンファレンス東京 (東京都千代田区)	2018年(第26回)コスモス国際賞受賞者の決定について 特定資産の取崩しについて 平成30年度収支予算の補正について 評議員会の招集について
第99回理事会	平成31年 3月20日(水)	経団連会館カンファレンス (東京都千代田区)	平成31年度資産運用方針書について 平成31年度事業計画及び収支予算について 特定資産について 顧問、参与の選任について コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

評議員会 平成30年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第52回評議員会	平成30年 6月25日(月)	阪急グランドビル (大阪市北区)	平成29年度事業報告及び収支決算書類の承認について
第53回評議員会 (決議の省略)	平成30年 8月29日(水)	—	特定資産の取崩しについて
評議員懇談会	平成31年 2月15日(金)	阪急グランドビル (大阪市北区)	平成30年度事業概要及び今後の展開について 平成30年度収支見込及び今後の見通しについて

平成30年度決算

貸借対照表 平成31年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	103,455,369	未払金	12,255,413
未収収益	76,588,360	預り金	1,417,155
流動資産合計	180,043,729	賞与引当金	3,159,842
2.固定資産		流動負債合計	16,832,410
(1)基本財産		2.固定負債	
基本財産定期預金	860,344,700	退職給付引当金	44,429,800
基本財産投資有価証券	29,655,300	固定負債合計	44,429,800
基本財産合計	890,000,000	負債合計	61,262,210
(2)特定資産		III 正味財産の部	
記念基金	9,948,086,600	1.指定正味財産	
退職給付引当資産	44,429,800	寄付金	10,000,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	10,000,000	基本財産運用益	90,000,000
特定資産合計	10,002,516,400	特定資産運用益	800,000,000
(3)その他固定資産		特定資産評価差額金等	△51,913,400
投資有価証券	4,222,660	指定正味財産合計	10,838,086,600
什器備品	8	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
その他固定資産合計	4,222,668	(うち特定資産への充当額)	(9,948,086,600)
固定資産合計	10,896,739,068	2.一般正味財産	177,433,987
資産合計	11,076,782,797	(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)
		正味財産合計	11,015,520,587
		負債及び正味財産合計	11,076,782,797

正味財産増減計算書 平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

単位:円

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	7,321,679
基本財産受取利息	7,321,679
特定資産運用益	237,510,430
記念基金受取利息	237,488,392
特定資産受取利息	22,038
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
雑収益	30,000
雑収益	30,000
経常収益計	248,862,109
(2) 経常費用	
事業費	190,047,900
役員報酬	8,316,000
給与手当	39,784,397
法定福利費	6,714,348
退職給付費用	1,855,142
賃金	21,000
職員厚生費	327,228
会議費	2,172,479
旅費交通費	6,289,511
通信運搬費	2,927,418
消耗什器備品費	203,478
消耗品費	1,539,275
印刷製本費	2,137,416
光熱水料費	2,177,245
修繕費	96,012
役務費	8,316
委託費	22,222,789
賃借料	4,436,811
使用料	2,139,147
保険料	202,972
諸謝金	6,039,880
租税公課	13,300
支払負担金・会費	23,563,675
支払助成金	16,195,000
支払手数料	514,133
顕彰賞金	40,000,000
雑費	150,928
管理費	65,451,084
役員報酬	3,564,000
給与手当	31,042,358
法定福利費	5,914,752
退職給付費用	1,474,258
賃金	9,000
職員厚生費	260,044
会議費	931,063

科目	当年度
旅費交通費	2,695,504
通信運搬費	1,254,607
消耗什器備品費	87,205
消耗品費	659,690
印刷製本費	916,035
光熱水料費	933,105
修繕費	41,148
役務費	3,564
委託費	9,524,053
賃借料	1,901,490
使用料	916,778
保険料	86,988
諸謝金	2,588,520
租税公課	5,700
支払負担金・会費	356,196
支払手数料	220,343
雑費	64,683
経常費用計	255,498,984
当期経常増減額	△6,636,875
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△6,636,875
一般正味財産期首残高	184,070,862
一般正味財産期末残高	177,433,987
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
基本財産運用益	7,321,679
基本財産受取利息	7,321,679
特定資産運用益	363,524,632
記念基金受取利息	239,697,732
記念基金投資有価証券償還益	123,826,900
特定資産評価損益等	40,062,585
記念基金投資有価証券評価損益等	40,062,585
一般正味財産への振替	△251,019,411
一般正味財産への振替	△251,019,411
当期指定正味財産増減額	163,889,485
指定正味財産期首残高	10,674,197,115
指定正味財産期末残高	10,838,086,600
III 正味財産期末残高	11,015,520,587

財団の概要(平成31年4月1日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 平成31年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	尾崎裕	大阪商工会議所会頭
評議員	角英夫	(特)日本放送協会大阪放送局長
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	竹内廣行	大阪府副知事
評議員	田中清剛	大阪府副市長
評議員	土井元章	(大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子	(公社)日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長

役員 平成31年4月1日現在(50音順)

会長	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長グループCEO
専務理事	田中充	常勤
理事	今西英雄	(大)大阪府立大学名誉教授
理事	奥水肇	(公財)都市緑化機構理事長
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(大)京都大学名誉教授
理事	和田新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

顧問 平成31年4月1日現在(50音順)

顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	アイング(株)最高顧問
顧問	三井康壽	(一財)住宅生産振興財団会長

参与 平成31年4月1日現在(50音順)

参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館館長
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	松本洋	(一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営事務、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、広報、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

2019年度(令和元年度)事業計画概要

顕彰事業

1. 2019年(第27回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2019年(第27回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和元年度は、2019年の受賞者選考及び決定に加え、2020年の選考準備を行います。2019年の受賞者は7月下旬に決定し、11月7日に授賞式を開催します。

2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、2020年ドバイ万博での実施に向けてBIEとの調整を進めます。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」、被災地における「復興活動支援」のため、助成事業を実施します。

2. 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働して実施する「歴史の道みどりの拠点づくり」については1件について実施するとともに、令和元年度の募集については、花博自然環境助成事業に統合して実施します。また、助成事業成果発表会と緑の交流広場と統合した「花と緑の交流広場」を継続して実施いたします。

普及啓発事業及び国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」、山野で生き物を調査・観察する「自然観察教室」、毎日新聞社との共催による「校庭・園庭における生態園づくり」、幼稚園・保育園児を対象とした「昆虫クエスト大作戦」を引き続き実施するとともに、令和2年度の公募の準備を行います。

2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップの開催等を支援します。

3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力する他、みどりの美しい景観となっている建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を高校生や一般を対象に開催する他、コスモス国際賞受賞者が出席するパリでの日仏学際的対話への参画、2020年の花の万博30周年記念事業の企画、準備を進めます。

広報については、花の万博資料や協会の蓄積情報をアーカイブとして展開する他、情報誌『KOSMOS』の発刊やソーシャルメディアを引き続き活用し、情報発信に努めます。

5. 国際交流事業

2019年の北京国際園芸博覧会への政府出展に協力する他、高校生を海外の自然に触れさせ現地の高校生との交流を図る海外青少年交流事業「高校生のための生き物調査体験ツアー in台湾」を継続実施するとともに、令和2年度の公募の準備を行います。

調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行うとともに過年度作成の小冊子「日本固有植物に学ぶ 自然のしくみと共生の知恵」を活用して、成果を広く発信します。

また、関西の企業や博物館、市民団体による「生物多様性協働フォーラム」に参画し、各情報の収集等を実施します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<https://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「山茶花」

晩秋から初冬にかけて咲く花として、日本で古くから愛されている花です。2018年(第26回)コスモス国際賞受賞者ベルク博士の思い出深い「山茶花(さざんか)」をモチーフとして、授賞式用のコサージュ、ブートニアとして作製しました。